

現在の私たちの身の周りの自然は、人間との何千年にわたる、かかわりの中で形作ってきたものなのです。そして、かかわり合いの程度は、植物の種類によっても違ってきます。多くの植物に、人間がどこまで手助けをし、どこまで植物自身の生命力に任せるか……難しい問題ですが20世紀の人間に、自然が突きつけた課題とも言えましょう。

植物を保護することの難しさ

自然を保護することはまた、『環境や生態系』という考え方を抜きには語れません。

植物は、発芽して太陽の光を受け水分や適当な温度に恵まれ、花が咲き実を結び種を散らします。

富里に生えている貴重な植物も、このようにして、何代も続いてきたことは確かです。

自然の中で植物が育つには、ある植物と他の植物の関係、花の受粉や種の散布などといった、植物と動物との関係などを、もっと大きな立場で考えていかなければなりません。

この考え方を「生態系」と言いますが、今日の報道によく出てくる、「オゾンホール」などの問題を考えると、生態系を取り巻いている、もっと大きな環境にまで目を向けなければなりません。

『開拓や開発』という視点も大切な要素で、富里町は明治以降、三度の大きな開拓と、幾度かの開発を経て今日の姿になりました。

それでも今日見られるような立派な自然が、まだ富里には数多く残っています。



クサナギオゴケ (カガイモ科)

日本の東限に当たる自生地が、町内に点々と散らばっている。いずれも自然の中に自生していることから、保護の研究には最適。
重要保護植物 (写真：折目庸雄さん)

人間の生活が原始に戻ってよいわけはありませんが、開発にあたって、経済面や利便性だけを追いかけると、自然を破壊することは困ったことです。

重要保護植物のクサナギオゴケは神社の林の中にあるのですが、この林は地域の取り決めて年に一回刈りをしています。

この植物が神社に自生するのは、下刈りのおかげとも言えますし、きっと、これを中止にすると、クサナギオゴケは消えてしまいかも知れません。

いずれにしても、人間の働きかけが自然に対して良くも悪くも作用することは、「保護」を考える上でたいへんに難しい問題だと思えます。

今、私たちにできること……

では、これらの自然を、21世紀に引き継ぐために、私たちはどのようなことをしなければならないのでしょうか。

まず、第一にできることは、現在の自然の状態をしっかりと「記録」に取っておくことです。

町視聴覚ライブラリーでは、「富里の自然シリーズ」として、町の自然の姿をビデオに記録し始めています。また「早春の植物」が一巻できあがったという段階ですが、このような仕事に自治体を取り組むことはとても大切で、大きな期待を寄せているところです。

次に大切なのは、「保護の方法について研究をする」ということ。

町の貴重な植物の代表ともいえる重要保護植物のミチノクフクジュソウを15株、中央公園に移植し、今年の春の段階で5株が、開花結実していることが分かりました。来年の春に5株以上に増えていれば、定着したと考えると良いと思われます。野生のスミレの仲間も何種か移植してみました。1年で消えてしまった種類もあります。



地形や環境、土質や移植の時期などを考えて行っているこの研究は、時間がかかりますが、自然の中で植物を保護していくのに大きなヒントを与えてくれると信じています。
そして、最も重要なことは、私たち住民が自然保護や環境保全への関心を持つということだと思います。
富里町には調査をしていない山林や谷津がたくさん残っています。



ミチノクフクジュソウ
(キンポウゲ科)

栽培されている福寿草より貧弱で、花の時期も遅い。町内に広い自生地があり、その自然のままの保護を考えていきたい。千葉県自生のものは新変種の可能性も指摘されている。
重要保護植物(写真：折目庸雄さん)

そこには貴重な植物がひっそりと、人の目に止まることなく、花を咲かせているかも知れません。その証拠に今年、サガミランの開花株を初めて見つけました。
「何かあるかな？」という好奇心の目で自然を眺めることで、3日に1種、5日に1種という発見の積み重ねが、富里町の自然の姿を、少しずつでも、正確に見えてくる要件と



(仮称)トミサトオトギリ
(オトギリソウ科)

町内で初めて発見された種類で、コケオトギリの仲間の新種と考えられる。研究され尽くしたと思われる植物にも、新種が見つかる可能性が残されているのは驚きです。と同時に「富里」の名の付いた植物が見つかったことは富里町としては嬉しいことだが、どうも帰化植物らしいのも富里町を象徴している。

(写真：折目庸雄さん)

野の花の美しさに感動したり、昆虫の営みに驚いたり、自然には人の心を引きつける魅力があふれています。ぜひ目を身近な自然に向け、接して、自然のファンになってください。そこから自然保護が始まるものと私は信じています。

なるような気がします。
自然保護や環境保全は実に根気のいる仕事です。その根気を生み出すもとはやはり、「関心を持つ」ことに尽きます。この関心は「好き」という気持ちから生まれてきます。
そして、その「好き」という思いが集ることが、より大きな目で見たら、富里の豊かな自然を守ることにつながるのではないのでしょうか。